
心が押しつぶされそうな時の呪文～幸せ～

Sorairo 光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心が押しつぶされそうな時の呪文〜幸せ〜

【Nコード】

N7556K

【作者名】

Sorairo 光

【あらすじ】

何を書きたかったのかわからない2です。
でも、前回作品とは違います。

幸せだよ。

そう言わせてください。

だって私は幸せだから。

空気が吸えて、目が合って、口も鼻も、かける事のない体で生まれてこれたから。

その中の“どれか”がかけても、“いくつか”がかけてても関係ないよ。

きっと私は幸せだと言っだろう。

今、生きていられることに対して。

え？当たり前すぎるって？

そうだよ、当たり前だから幸せなんだ。

バカみたいでしょ？私もそう思ってた。

何当たり前に存在するものにありがたがってるんだらう、当たり前
に存在するんだから当たり前じゃないか。

感謝するほどのものでもない……と。

というか、気にしてきたこともなかった。

そんな私が何故幸せだった？

息が詰まってしまいそうだったから。

誰に出会ったわけでもない。

空を見上げたわけでもない。

空は曇りだったし、周りの人間は相変わらずだったし、何にも変わ
らない。

でも、死んでしまいそうだった。

苦しかった。

“いつも通り”であるということ、感謝もしない自分のこの体や、
存在。

すぐく“ちっぽけ”に見えた。

だからああ、自分は幸せなんだって思った。

存在を考える暇も、生きる器からたもあって、息ができてて。

誰とこうだから違う？

そんなの当然じゃない？

同じ人間なんて存在しない。

どれだけ似てても、それは“自分”じゃない。

だから自分は自分だけしかない。

悲劇的になろうとすればいつでもなれる。

でも、それに押しつぶされそうになるのは間違ってると思った。

だから私は雨の降り始めた曇りの空に向かって、傘もささずに「幸

せだ」とつぶやいた。

誰に言うわけでもなく、自分に聞かせるわけでもなく。

「幸せ」だって。

ただそれだけなのに、重くて苦しかった心が軽くなった。

さあ、今この道で、スピードを出してみよう。

破壊でも少しはすっきりするかもしれないけど、きつとこんな気持

ちにはなれない。

だからあなたもつぶやいてみて。

「幸せ」だって。

少し、そんな自分がバカらしくて笑えてくるようになるから。

完璧な人間は存在しない。

だから、押しつぶされそうなときは言ってみて。

「幸せ」だって。

今、生きてること、存在すること、息をしていること。

全部、全部、当たり前前だけと言ってみて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7556k/>

心が押しつぶされそうな時の呪文～幸せ～

2011年10月5日13時51分発行